守口市が〝子ども追い出し計画〟

維新顧問・西端市長

市立幼稚園(5園)・保育所(11園)を全廃

わずか3園(認定子ども園)に

一方的であまりに急

保護者ら計画撤回求め運動

守口市の子ども・子育て施策をめぐり異常な事態が起きています。4年前に大阪維新の会推薦で初当選した西端勝樹市長は、市立幼稚園と市立保育所の大規模な廃止・統合計画を一方的にまとめ、市の審議会に諮問。今年度末で廃園とされ、年少児が追い出される幼稚園もあるだけに、保護者らが「到底受け入れられない」として撤回・見直しを求める運動に立ち上がっています。

維新市長の一方的な市立幼稚園・保育所の廃園計画の撤回・見直しを求め記者会見する「存続を求める会」のママさんたち=7月24日、守口市役所内

何でも民営化の市長

西端市長は7月3日の守口市すこやか幼児審議会に、市立幼稚園・保育所の再編整備基本計画(案)を諮問。市立幼稚園5園を全廃、市立保育所も11園を廃止して、市内でわずか3カ所の市立認定こども園に再編するというものです。

今年度から子ども・子育て支援新制度が始まっている中、「就学前の教育・保育サービスは、民間事業者からの提供を基本とする」と〝何でも民営化〟を前面に打ち出し、市立幼稚園・保育所は集約化して認定こども園とすることを盛り込んでいます。

市東部のとうだ・おおくぼ・にわくぼの3幼稚園は今年度末で廃園して「一時統合園」とした上で、2018年から市立認定こども園に。市中部のやくも幼稚園は2016年度末に閉鎖、市南部のとうこう幼稚園も2017年度末に閉鎖するというもの。市は8月末まで計5回の審議会やパブリックコメントを経て成案にするとしています。

100人以上が議会傍聴に

20日開かれた第2回審議会には、突然の廃止・統合計画の発表に驚いた幼稚園・保育所の保護者70人以上、幼稚園教諭や保育士らも30人以上が傍聴に詰め掛けました。

3日で署名6千筆超

配慮のない冷酷な計画

さらに5幼稚園のPTA、5保育所の保護者会役員が「市立幼稚園・市立保育所の存続を求める会」を結成しました。「今年度末から廃園が始まり、多くの在園児が追い出される。親の選択権を奪い、子どもの成長にまったく配慮しない冷酷な計画には反対」と、存続署名運動に取り組むことを決定。わずか3日余で6058筆を集め、24日に審議会に提出しました。

署名提出後に記者会見したPTA役員からは、「4月に入園する前には何も聞かされていなかった。それからわずか3カ月、いきなり年度末で廃園と言われても納得できない。園児本人や保護者に混乱を与え、負担をかけるもの。もっと時間をかけて説明すべき」(とうだ幼稚園)、「ことし創立50年を迎え、5年前に耐震工事も完了。八雲小学校に隣接していて地域と児童との交流もあり、安心して通わせられる。いまあるものを壊すのではなく、少しずつ良くしていくのが筋です」(やくも幼稚園)などの声が相次ぎました。

存続を求める会代表幹事の一人で、おおくぼ幼稚園PTA役員の岡本晶子さん(43)は「事前の説明もないのに、あまりに急な廃園計画で到底受け入れられない。認定こども園もどういうものになるのか分らない中で、一方的に幼稚園をつぶすのはおかしい。保護者の要望などを無視してきた市の責任は大きい」と厳しく批判しました。

「存続を求める会」に寄せられた保護者の声

騙されたとしか

○…「納得できないのは準備期間はまったくないこと。子どもたちや来年度に入園希望の子どもたちのことを考えていません。廃園・統合に反対する以前の問題で、入園前に分かっているのと、入園後に分かるのとはまったく違います。入園した幼稚園で卒園できないなど、騙されたとしか言いようがありません」(にわくぼ幼稚園)

子の心どうなる

○…「『子どもたちの教育のため』と訴えられても、自分たちが選んだ楽しい園をなくされ、卒園できないことを子どもたちに聞かれたとき、何と言うのでしょう。悲しすぎます。近い目標を閉ざされた子どもたちの心はどうなるのでしょう」(おおくぼ幼稚園)

市の責任果たせ

○…「いまのような強行的な進め方は、在園児、保護者、先生方への裏切り行為です…現在の年少児の保護者は現状の園を希望して入園し、市も現状の園への入園を許可したものであり、現在の年少児の卒園は、市の責任として当然だと思います」(とうだ幼稚園)

守口市の計画案で今年度末の廃園が狙われているにわくぼ幼稚園

市長選の一大争点に

〝無理・無駄・無謀の典型〟

ちゃばた候補「計画白紙に」

守口市立幼稚園・保育所の廃園問題は、2日投票の市長選でも一大争点になっています。西端市長と一騎打ちの選挙戦をたたかう「未来を創る守口市民の会」副会長のちゃばた保夫候補(67)=無所属=は、「市民に負担や押し付ける無理・無駄・無謀な維新暴走政治の典型が、幼稚園・保育所の廃園」と強調。「子どもを追い出すという冷たい仕打ちをしてまで廃園を強行することは断じて許せない」と批判し、乱暴で拙速な廃園計画を白紙に戻すと公約しています。

みんなの願いを国会へ　わたなべ結物語　最終回

仲間とともに歩み続ける

得票率42・8%

昨年12月の解散・総選挙。衆院大阪3区で必勝を期し国政挑戦に臨んだわたなべさんの得票率は42・8%。日本共産党が公認候補を立てた292選挙区の中で全国1位の得票率。小選挙区で唯一、議席を獲得した沖縄1区(得票率39・8%)を上回ったのです。

「度肝を抜かれました。ここまで迫ってくるとは…」「わたなべさんの演説に共感した市民は少なくない」。他陣営からそんな声が上がるように、大阪3区の選挙結果は驚きを持って受け止められ、保守系大阪市議も選挙後、「共産党とは立場も政策も違うが、頼もしい政治家です」と語りました。

論戦・提案・共同

わたなべさんの訴えが有権者の支持を集めた背景には、安倍政権の暴走ストップを掲げ日本共産党の主張を広げた政策論戦に加え、地域に飛び込んで粘り強く政治を変える「共同」の力を広げてきたことがあります。

大阪市立大2部廃止反対の署名活動や住吉市民病院を守る運動、府立咲洲高校廃止反対の署名運動など、一貫して住民運動の最前線で活動。日々寄せられる生活相談にも親身に寄り添い解決へ尽力しました。

この中で、1人のシングルマザーの切実な声を国会質問につないだこともありました。婚姻歴がない一人親家庭に寡婦控除が適用されない問題を解決しようと署名活動の先頭に。山下芳生書記局長を迎えて当事者と懇談会を開き、山下議員が参院内閣委員会で非婚の母にも寡婦控除が適用されるよう制度改正を要求。この年、大阪市で「みなし適用」による保育所保育料軽減が実現したのです。

次は必ず勝つ

「負けられない。絶対に勝つ」と死力を尽くした衆院選。大阪3区の開票結果が出た直後でした。事務所に掛け付けた支援者を前に、「泣きながら手を振って応援してくれた人がいました。悪政に苦しむ多くの人の涙があった。その声に応えられなかったことが悔しい…」と声を詰まらせました。

「あなたの話は真心がある」と手を握ってくれた女性や、「初めて共産党に投票したい」と手紙を届けてくれた有権者の顔を思い浮かべ、敗戦の弁の最後をこう結びました。

「憲法を守るたたかいがこれから始まります。国民の願いの受け皿になれる日本共産党が躍進して政権をとる、そのために〝頑張る〟と言うだけじゃだめ。次は絶対に勝ちます!」

誇らしい生き方

来年の参院選まで1年。連日の猛暑の中、わたなべさんはデモ行進の先頭に立ち、集会や街頭演説で戦争法案反対と安倍政権の退陣を訴え続けています。

@私は無党派だけど戦争は絶対に反対です。結、頑張って戦争を止めて!@自分で考え、できる行動をしていきます@

7月16日午後。わたなべさんにそんなメールが2通届きました。

自公与党の強行採決によって戦争法案が衆院通過したこの日。圧倒的多数の反対世論を無視した暴挙の直後に、大学時代の友人が書いたメッセージでした。

参議院の審議入りを前に、集会とデモ行進に参加したわたなべさんが訴えました。

「私はいま34歳。これまでの人生と、平和や日常の安心感は憲法9条によって守られてきたと実感しています。この平和を次の世代、また次の世代へとつないでいきたい。憲法9条が高らかにうたっているように、決してたたかわないという、困難だけど勇気が必要な、そして人間として最も誇らしい生き方を貫きたい。一人の日本人として、皆さんと力を合わせて戦争法案を廃案に追い込みます。憲法と民主主義を守り、安倍政権を退陣に追い込むまで共にたたかい続けます」

みんなの願いを国会へ――たたかいの現場にいつもわたなべさんの姿が